

#### 14 サイゴン河 荻須高德

昭和十七年（一九四二） 油彩・カンヴァス  
五九・三×七一・四

生涯を通じてパリの街並みを描きつづけた画家として知られる荻須高德が、昭和十七年に陸軍省の嘱託としてフランス領インドシナ（現在のヴェトナム社会主義共和国）に派遣された際、サイゴン（現在のホーチミン市）中心部を流れるサイゴン河を描いた作品である。サイゴン河はインドシナ半島東南部を流れて南シナ海へと注ぎ、河口に位置するサイゴン港は現在に至るまで同市の水運の拠点である。日本軍の南方進出にともない、当時、サイゴンには多くの日本人が駐在していた。作品は滞在先のホテルから眺められた風景であろうか、水平線を高くとり、その下の右上半分をサイゴン河、左下半分をサイゴンの街並みが描かれている。河岸には緑を繁らせた樹木と赤い屋根の建物が建ち並び、河幅三百メートルあるというサイゴン河には、小舟だけでなく大きな輸送船が何隻も停泊している。戦時下のアジアの都市を描きながらも、荻須らしいフランス仕込みの洗練された感覚で、南方の異国情緒が明るく軽快な筆致でとらえられている。画面左下に「Ogins」のサインがあり、カンヴァス裏には「サイゴン河／佛印 荻須高德」と書かれている。

荻須高德（一九〇一―一九八六）は愛知県出身で、東京美術学校西洋画科に入学し藤島武二のもとで学んだ。昭和二年（一九二七）の卒業後すぐにフランスへと旅立ち、サロン・ドートンヌやソシエテ・デ・ザルティスト・アンデパンダンなどへの出品を通じて有望な画家として認められ、フランスはじめ各国政府に作品を買い上げられた。欧州の戦闘激化にともない一時帰国するが、戦後、日本人画家として初めて入国を許可されて再びフランスへと戻り、終生パリを中心に制作活動を続けた。同三十一年、フランス政府からシュヴァリエ・ド・ラ・レジオン・ドヌール勲章を授与、同五十六年に文化功労者に選ばれて、没後、文化勲章を授与された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections